

令和5年度全市一斉防災訓練の参加結果及び感想等（まとめ）

各公民館別（最終集計）

● 参加者

※協力団体～NPO法人Vネットおかやま

東児	3団体 148名	上山坂自主防災会、梶岡連合自治会自主防災会、西田井地自主防災会
山田	4団体 179名	原地区自治会自主防災会、上山田自主防災会、品之作自主防災会、白石地区自治会自主防災会
八浜	3団体 149名	硯井ヶ丘町内自主防災会、東七区自主防災会、広木地区自主防災会
荘内	10団体 475名	東高崎自治会防災本部、用吉区自主防災会、豊岡地区自主防災会、迫間中谷町内会、二軒屋町内会、川田自治会自主防災会、学校前区自主防災会、広岡区自主防災会、永井地区自主防災会、長尾南地区自主防災会、滝区会自主防災会
田井	2団体 61名	三軒屋中町内自主防災会、先丁場自主防災会
中央	3団体 129名	東小浦町内自主防災会、藤井地区自主防災会、宇野防災会
玉	3団体 19名	玉海岸地区町内自主防災会、里第3町内会、里第4町内会
和田	1団体 592名	和田・御崎地区自主防災組織連合会
日比	2団体 123名	御崎シーサイド連合自治会自主防災会、向日比1丁目・深井団地自主防災会
参加団体及び参加者		合計 31団体 1,875名

● 避難に要した時間（自宅から一次避難所等まで）平均19分48秒

（回答のあった22団体の平均所要時間）

● 訓練内容

東児	防災資機材の展示・点検、土のう作り訓練、非常食試食、一次避難所まで徒歩避難
山田	防災資機材の点検、AED取扱い訓練
八浜	指定避難所、一次避難所まで徒歩避難
荘内	それぞれの地区で決められている一次避難所まで徒歩避難、防災資機材の点検、非常食試食、安否確認のための「黄色いハンカチ作戦」、ハザードマップを見ながら、避難経路を確認（危険箇所等の把握）

田井	一時避難所まで徒歩で避難、防災スリッパの作製
中央	水消火器取扱訓練、消防団の放水見学
玉	指定避難所まで徒歩で避難
和田	2地区で決めている避難所（体育館）まで徒歩避難、避難所運営訓練（煙体験ハウス、消火器取扱訓練など）
日比	防災資機材の点検

● 訓練の感想・意見等

東児	<ul style="list-style-type: none"> ○・訓練日が地元の行事と重なり、参加者が少なかった。 ○・防災保管庫の備蓄品の中で、消費期限等が切れているものは、新しく買い換える予定。 <ul style="list-style-type: none"> ・今後、歩行困難な方の訓練への参加をどう呼び掛けするかが課題。 ・最大20分で、全員一時避難所まで、避難することができた。 ○・前年より、参加者が減少したが、子どもの参加が増加し、土のう作りを楽しく実施することができた。（次世代に対し良い訓練であった。）
山田	<ul style="list-style-type: none"> ○・昨年より、参加者が減った。 <ul style="list-style-type: none"> ・市から配布された非常食を参加者に配ったが、他に何か検討したい。 ・消火器取扱訓練などのイベントを企画したい。 ○・参加者から「防災行政無線が聞こえない・聞こえづらい。」との意見あり。 <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、避難困難者の参加がなかったので、避難に要した時間はあまり参考にならない。 ・参加者に南海トラフ地震による対応等の簡単な説明をしたが、不参加者への周知が難しい。 ○・予想したより、参加者が少なかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・避難終了後の訓練を何か考えなければならない。
八浜	<ul style="list-style-type: none"> ○・地区全体に防災行政無線の放送が聞こえにくい。 <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練への参加者を増やすように考えたい。 ・次回の訓練では、避難訓練終了後、炊き出し訓練や簡易トイレ設置訓練を実施したい。 ○・今回は、参加者が昨年よりほぼ倍増した。（積極的な周知で大勢の方に防災意識の再徹底が図られた。） <ul style="list-style-type: none"> ・防災資機材（乾電池式拡声器、拡声器型マイク）を使用して避難誘導や集合後の人員掌握を行いスムーズな進行が図られた。 ・非常食（アルファ米）の試食を行った。（今回は水で調理したが、想像以上においしかったとの意見が多かった。） ・課題としては、今回の参加者の多くは、高齢者であり、次世代の方にも参加できるような取組が必要である。

<p>荘内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○・事前に訓練日を広報していたため、15分ほどで高台の公民館前に避難できた。 ・知人の話によると、阪神・淡路大震災の際、建物の倒壊等で避難にかなりの時間がかかった。(倒壊建物等において盗難事件等もあった。) ・市から提供された非常食を配ったが、好評であった。 ・参加された方は今回の全市一斉訓練に関心を持ち、熱心に参加していた。 ○・救急車を呼ぶ時に注意すべき点など、現役の消防士に話が聞けた。 ・家庭内での備蓄品等のチラシを配布し、チェックを促した。 ・一時避難場所まで、徒歩で15分～30分ぐらいかかるので、日頃より意識して行動する必要性を感じた。 ○・避難訓練終了後、防災士の講演があったが、とても参考になった。 (行事や祭りを通じて、住民同士がつながりを持つことが大切) ・住んでいる地区が液状化になることを初めて知った。(玉野市独自のハザードマップを作ってほしい。) ○・今回の訓練は、実訓練ではなく、地区の特性について専門家を講師に招き、以下の3点について説明を受けた。 ①地域の特性 ②各所に設置されているポンプの役目 ③大雨・洪水による増水時の避難について→最悪の場合は垂直避難(自宅2階) ○・特に問題もなく、皆さん良い訓練ができた。 ・避難場所までの経路も確認したところ、問題なし。 ・今後も、こういった訓練を続けていきたい。 ○・訓練開始のサイレンの回数を増やしてほしい。 ○・資機材を点検したところ、経年劣化しており、買い替えの必要あり。 (ハンドマイク、ブースターケーブル) ・炊き出し用保存食は、大人数であったため、大きな鍋を使用したので短時間で調理できた。 ・発電機が始動しなかったのが今年修理した(キャブの詰まり)。長期間保管するときは、ガソリンを抜く必要がある。 ○・参加者多数のもと、「黄色いハンカチ作戦」により安否確認を実施。 ・緊急連絡網は、グループラインを導入している班は早く、電話のみの班は、時間がかかった。特に高齢者世帯は緊急時の連絡が繋がりにくい。
-----------	--

田井	<ul style="list-style-type: none"> ○・事前に防災避難訓練の告知を行っていたので、スムーズに行われた。 ・大災害が起きた場合、消防などはすぐに対応できないので、地域の力が不可欠である。 ・屋内にいと、防災行政無線は聞き取りにくい。 ・今後、参加者を増やすためにどうすべきか。 ・小さな子どもは、しっかりと手を繋ぎ、離れないようにする。 ・避難訓練の場を借りて、町内の親睦を図った。 ○・今回の訓練に際し、事前にテーマを決め、回覧等で徹底した。 ・避難終了後、①スマホを使って自分がいる場所の標高高を確認した。 ②次にブルーシートの上で、新聞紙を使用して防災スリッパを作製した。
玉	<ul style="list-style-type: none"> ○・防災行政無線のサイレンが聞こえない。対策はないのか。 ・参加人員が少なかった。
和田	<ul style="list-style-type: none"> ○・市作成の防災チラシを当日参加者に配布した。 ・今回は、VR体験、煙体験、消火器取扱訓練を実施した。 ・倉敷ケーブルテレビにおいて、訓練の様子が放映された。
日比	<ul style="list-style-type: none"> ○・今回は、平常時において準備しておく対策や災害時における有効的な行動についてクイズ方式で説明した。 ・避難終了後、防火訓練として警報ベルを作動させ、屋外への避難を実施した。